

みやぎ復興つうしん

1月号

GO!GO!
ボランティア

発行

社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会
宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター
〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉一丁目2番3号 自治会館2F
TEL: 022-266-3952 FAX: 022-266-3953
URL: <http://msv3151.c-bosai.jp/>



新たな一年を迎えて

～これからの被災者支援、地域福祉へのアプローチ～

震災から約10ヶ月、そして新しい一年がスタートしました。本年は長期的な展望も視野に入れた被災者支援、復興プランを描いていく上で、その方針や活動自体にも重要な意味を持つ年になります。

宮城県社会福祉協議会では5つのテーマを掲げ、各市町村社協をサポートするための指針を示したいと考えています。まず「ボランティアセンターの運営」について。本来の地域福祉ツールとしてのボランティアコーディネート機能を再確認し、高めていくための提案をしていくこと。次に「各市町村社協の運営へのサポート」について。震災や復興活動の影響で市町村社協によっては運営基盤が弱くなっている部分があれば、外からの視点で提言、進言を行なっていきたい。そして「サポートセンター運営」。各被災者支援サポートセンターは2012年度より各市町村からの委託がさらに具体的に進みます。新たな枠組みによる運営を円滑にする施策も提案していきたい。次に「行政との関わり」。前述のサポートセンターを介し、相互理解や協力関係を強化できる機会でもあります。最後に「地域福祉への動きかけ」。社協の活動意義の根本でもある要素ですが、一方で震災の影響で地域住民の協力関係、地域の枠組みの意識は自然と高まっています。より高いレベルの地域福祉を育て、仕組みを強化していかなければなりません。そして社協自体がその活動に深く関わり、より地域から愛されるような組織になることをめざしていきたいと考えています。

「各市町村社協も私たち県社協も、間違いなく前に進んでいる。そのスピードは違ったとしても、着実に地域福祉、そしてさらなる被災者支援の充実に向けていい方向に向かっていていると思うんです。そして、職員たちが震災の活動から得た貴重な経験や知識。それをきちんと内包し、財産として次の世代に受け継いでいくことも視野に入れていかなければ」とは県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンター統括補佐の吉田栄一さん。復興元年とも言われている2012年。宮城県社協は、被災者が一日も早く普通の生活に戻れるようになるために、そして本来の目的のひとつである地域福祉のさらなる充実をめざして様々な提言や施策を検証しながら、各市町村社協や関係団体との協力関係をさらに深め、ともに歩みを進めていきたいと考えています。

全国の皆様のあたたかい
応援ありがとうございます



災害ボランティア シンポジウム

第7回社協フォーラム開催

～「被災後の支え合い」を切り口とした小地域福祉活動～

開催日時 平成24年2月4日(土)

午後2時～午後4時30分 ※午後1時30分開場

会場 ベルエア会館 5階会議室ほか

未曾有の被害を及ぼした東日本大震災はたくさんの方々に様々な影響を及ぼしました。家族や家屋を失った悲しみ、収入の減少による経済的負担の増加、失業による生きがいの喪失など目に見える被災に限らず、精神的な部分に対する課題が深刻さを増し、今後、仮設住宅や従来の在宅で引きこもりや孤立が増えることが考えられます。これらの課題に対して必要なことは、専門家による支援だけでなく、いかに日常的により身近な住民同士がお互いに気に掛け合い、関わりを保っていけるかがこれまで以上に重要となってきます。

今回のフォーラムでは、被災後の地域課題に照らし合わせた小地域福祉活動の実践を考え、その力を探り、復興に向けた支え合いの姿と地域福祉活動の原点を確認することを目指して開催します。

詳しくは、宮城県社会福祉協議会 HP をご覧ください。

<http://www.miyagi-sfk.net/>

お問い合わせはこちら

宮城県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課
[担当: 北川・浅沼]
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-2-3
Tel 022-266-3950 / Fax 022-266-3953

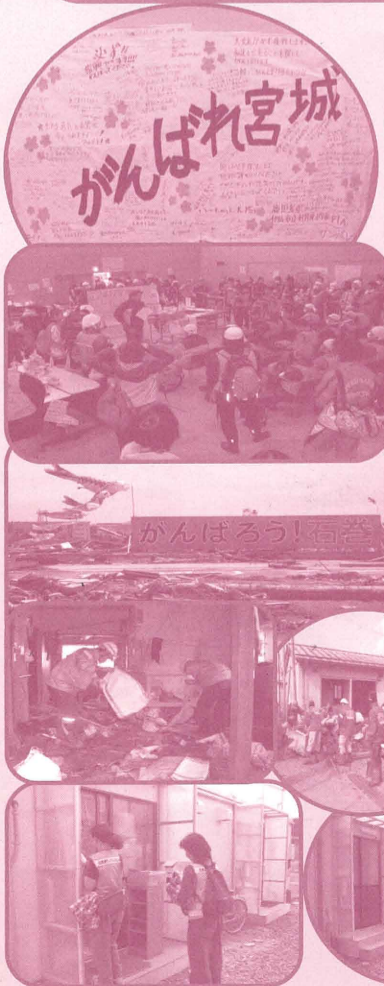
●日時: 平成24年2月4日(土)
10:00 (開会) ~ 12:30 (閉会)

●会場: 電力ホール
●定員: 1,000名 (先着順)
参加無料 参加申し込み不要

●テーマ
『復旧から復興に向けた支援活動の今後』
～これからの私たちの役割～
目的: ボランティア活動の重要性の理解とボランティア活動の啓発及び更なる活性化を図るため

●登壇者
[シンポジスト]
(特活)レスキューストックヤード 浦野 愛 氏
みやぎ生活協同組合 小澤 義春 氏
石巻市社会福祉協議会 阿部 由紀 氏
兵庫県社会福祉協議会 馬場 正一 氏
[コーディネーター]
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議
桑原 英文 氏

●主催: 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
●連絡先: 宮城県災害・被災地社協等
復興支援ボランティアセンター
☎ 022-266-3950



被災地の取り組み みやぎ～絆～ smile ☺

塩竈市

「発災時は北浜デイサービスの利用者さんの避難を急ぎ行いました。事業所で避難されてきた近所の方々や職員たちと不安な夜を過ごしながらも『市の被害状況を調べ、早く災ボラを立ち上げなければ』という意識がありました」とは塩竈市社会福祉協議会地域福祉課課長補佐の班目義則さん。たまたま翌日に開催予定だった「災害ボランティアセンタースタッフ養成講座」に向けて準備していたこともあり、震災二日後の3月13日に「塩竈市災害ボランティアセンター」を比較的スムーズに立ち上げられたという。当初から県外からのボランティアも受け入れ、18日からは100名を超える人数が集まり始める。地域に近い立場にいる民生委員の協力にもよって住民からのニーズも効率的に拾い上げ、4月上旬から早々と災ボラ系の活動が収束に向かい始めたことも同センターの特徴だろう。6月10日には災害ボランティアセンターを閉所、その後のニーズは地元のボランティア団体と連携しながら対応をしていった。「全国、世界から述べ7,400人以上のボランティアに集まっていたことには感謝の言葉しかないです。近畿地区の各社協をはじめとしたブロック派遣の方々、また当社協の施設の職員にも積極的にボラセンの運営に携わってもらったおかげで、ボランティアの方に余計なストレスを与えることも少なかったんじゃないかと思えます。市や民生委員さんたちとしっかりと連携が取れていたことも大きいですね」。

11月15日から市の委託により被災者の生活支援を目的としたサポートセンターを立ち上げた。現在、塩竈市では5ヶ所の仮設住宅で206世帯の住民が生活している。「時間はかかると思いますが、被災者が自立して生活を送っていけるよう働きかけていきたい。みなし仮設住宅にお住まいの方に関しても、民生委員さんや市と協力してサロンなどの話題を提供しながら地域に溶け込めるような働きかけを行いたいです」。

塩竈市社協では、震災前に計画していた特別養護老人ホーム新設の計画も進めることが決まっている。「被災者の生活支援とともに、もともと必要とされていた地域福祉、介護事業の分野もしっかりと充実させていきたい」。街を復興させること、そして街をより暮らしやすくしていくこと。

市の社会福祉協議会としての視野、スタンスがはっきりとみえるような班目さんの話だった。



塩竈市社会福祉協議会ボランティアセンター
住所：塩竈市北浜 4-6-52 (塩竈市社会福祉協議会)
TEL：022-364-1213

山元町

昨年11月20日、山元町の「災害ボランティアセンター」は、「復興応援センター」に名称を変え、同時に、ピーク時は12か所ほどもあったテント村を撤去した。「寒くなりましたからね。中央公民館前にあったテント村に最後まで残った一人のボランティアさんは、ある家の改修を引き受けていたので、それが終わるまで、しばらく残っていましたけど。今は、個人の募集はやめて4人以上の団体だけに来てもらっています」と山元町社会福祉協議会企画係長の高橋和子さんは話す。

山元町は、当初、立ち入り禁止区域が大きく、6段階にわけて立ち入り許容区域を広げていったため、11月7日にやっとすべての町内に入れるようになったばかりだ。高橋さんが続ける。「第一次の立入許容区域は4月9日だったのですが、全壊、半壊合わせて約2,500世帯のうち、約200世帯しか入れなかった。だから、ボランティアセンターは震災の翌日、3月12日に立ち上げたものの、しばらくはガソリン事情もあり、被災した地元の人たちがボランティア登録をして災害対策本部のニーズを受けて避難運営のお手伝いをしたり、炊き出しのお手伝いをするしか動きがありませんでした。その後も段階的に立ち入りが許容されていったので、一度にドッと来て、ワーツとやってもらうよりも、継続的に来てもらう必要があったんです」。

山元町には、現在、1,030戸の仮設住宅があり、2,703人が生活している。再び、高橋さんが話す。「生活支援員は、13人いますが、仮設住宅で年末年始のイベントを希望するところはありませんでした。ですが、障がいのある方やおひとり暮らしの方など、支援が必要と思われる方の訪問活動は年末年始も継続させていただきました。被災されたみなさんも、そろそろ静かに暮らしたい、と思っているんじゃないでしょうか」。

気温が下がったため、仮設住宅のむき出しの水道管が凍結するなど、新しいニーズは尽きない。だが、そんな中、確実な復興の実績も出てきている。例えば、イチゴハウスだ。イチゴが名産の山元町では、町として一刻も早く自立できるよう、イチゴ農家の復旧を優先してきた。「139ヶ所あったイチゴハウスのうち2ヶ所しか残らなかった。残ったイチゴも、出荷できるものではなくボランティアさんたちに食べてもらったりしました。そんなつながりから、ハウスの泥かきなどをボランティアさんにやってもらった。なんとか昨年のクリスマスシーズンに間に合わないかと頑張っていたら、復旧しつつある4軒の農家のうち1軒のイチゴが間に合ったんです。うれしかったです」。高橋さんの顔に笑みがこぼれた。



やまもと復興応援センター
住所：亶理郡山元町浅生原作田山 32 (山元町社会福祉協議会)
TEL：080-5949-7720

イベント情報

1/28 (土) 立命館宇治高校生慰問 @多賀城市社協復興支えあいセンター

立命館宇治高校の生徒さんが、山元仮設住宅に訪問して下さいます。生徒さんとの触れ合いを通し、心安らくひとときをお過ごしください。

2/4 (土) お礼状プロジェクト 「ボランティアさんへありがとうのメッセージを書いて送ろう」 @七ヶ浜町災害ボランティアセンター

日程：2/4(土)、2/11(土)・2/12(日)、2/18(土)・2/19(日)、2/25(土)・2/26(日)
時間：13:00～15:00 場所：公民館第1・2会議室 *無料

2/11 (土) 黒岩悠 ピアノコンサート @七ヶ浜町災害ボランティアセンター

時間：16:00～ 場所：公民館大会議室 *無料

2/26 (日) 七の市商店街盛り上げイベント @七ヶ浜町災害ボランティアセンター

今月の「人」

東松島市社会福祉協議会 生活支援相談員
矢本西サポートセンター

尾形 京子さん



東松島市社会福祉協議会では、被災者の生活支援を充実させるためにサポートセンターを3ヶ所の仮設住宅内に設置、10月から市の業務委託を受けて運営を行っている。合計663世帯の仮設住宅を支援員が直接訪問して情報を集め、問題を解決する糸口を探ったり、時には市役所につないだり、また、訪問支援員をサポートすることも尾形さんの役割になっている。

「私たちセンターの一番の目的は住民の方々の健康面の確認だと思っています。全世帯を見守ることを心がけていますが、土日を利用して何回も訪ねてもなかなかお会いできない世帯もあって、チラシを配るなどコンタクトを取れる方法を考えながら活動しています。また、直接サポートセンターを訪ねてくれる方からは人間関係に悩む旨のお話も伺います。お茶会などのサロンの活用するなど、住民間のコミュニケーションを図ることも促進していきたいです」。

尾形さんは以前、特別養護老人ホームで勤務した経験も持っている。実際、ヘルパーを希望されるご家庭もあり、そうした要望もしっかりと関係部署につなげていきたいと思う。「二人暮らしの世帯や高齢の二人暮らしの世帯などを重点的に回ってもらおうという訪問支援員さんをお願いしています。足を運んで情報を集めてもらい、私たちが応えられないことはできるだけ応えていきたいと思っています」。被災者に近い言葉が印象的な尾形さん。同じ地元の被災者が自立した生活に戻れることをめざしてサポートを続けていく。